

在宅脳卒中片麻痺患者の日常的な外出に必要な因子に関する研究

1. 研究の対象

2014年7月～2020年8月までに訪問看護ステーショングラウチアにおいて訪問リハビリテーションを受けた方

2. 研究目的・方法

心身・精神機能に重大な後遺症を残す脳卒中患者は日常生活における活動範囲が屋内に留まりやすいと報告されています。厚生労働省の国民生活基礎調査によると、介護が必要になった主な原因としては、脳卒中が要介護状態となる基礎疾患の1位とされており、在宅脳卒中患者の閉じこもりが深刻な社会問題になっています。そこで今回、在宅脳卒中患者の閉じこもりの予防支援を行うことを目的に日常的な外出に必要な因子について分析していきます。

訪問看護ステーショングラウチアリハビリ部門では、訪問リハビリの開始時や終了時などに訪問リハビリ担当者が身体機能評価や生活状況の評価を行っています。今回の調査には、このデータを用います。方法は、訪問リハビリを利用し、終了時に外出を実施していた方と外出を実施していなかった方のデータを比較します。

これらの研究は、2020年10月～2022年2月の間に実施します。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：年齢、性別、疾患、身体機能の情報、生活状況の情報 等

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

公益財団法人脳血管研究所 附属美原記念病院 リハビリテーション部

研究責任者 野本正仁

住 所：群馬県伊勢崎市太田町366

T E L：0270-27-8813 F A X：0270-24-3359